

ライコムギを活用した日本短角種の自給飼料主体肥育技術

【1 成果概要】

日本短角種肥育牛に、「トウモロコシサイレージ」や「ライコムギサイレージ」等の自給飼料を主体に給与し、生産性を落とさない飼料自給率を高めた牛肉生産が可能です。

飼料用トウモロコシとの2毛作が可能な「若刈りライコムギ」を蛋白質源として活用し、トウモロコシサイレージを多給する肥育手法で、給与メニューは下表の通りです。

表1 給与メニュー

		肥育前期		肥育後期		乾物kg
		8-16ヶ月	16-24ヶ月	16-24ヶ月	総摂取量	
ライコムギ利用	トウモロコシS	4.5-6.0	6.0-7.2			2798
	ライコムギS	1.4-2.0	1.4-2.0			676
	フスマ	0.9	0.9			401
慣行法	配合飼料	体重比1.6%	体重比1.8%			3261
	牧草S	5	7.0			1238
	稲わら	0.9	1.8			348
黄色防止メニュー	トウモロコシS	4.5-6.0	6.0-7.2			2798
	ライコムギS	1.4-2.0	出荷前6ヶ月以降0			428
	フスマ	0.9	2.7			614

Sはサイレージの略

肥育の特徴

- 1 配合飼料主体の慣行法とほぼ同等の発育が確保できます。
- 2 自給飼料の給与割合は89%と高く、飼料自給率が高い牛肉生産が可能となります。
- 3 枝肉重量はやや小さくなりますが、枝肉1kgあたりの飼料費は慣行法と同等です。脂肪色はやや黄色くなります。

表2

増体性	ヶ月齢、kg、kg/日			
	試験区	開始 体重	終了時 月齢	DG
ライコムギ利用	250	23.6	733	1.01
慣行法	247	23.7	757	1.07

DG; 1日あたりの平均体重増加量

表3

枝肉成績	kg, cm2, cm, %, ナンバー					
	枝肉重量	ロース芯 面積	バラ厚	皮下 脂肪厚	歩留 基準値	BFSNo
ライコムギ利用	430	48	6.8	2.6	72.6	4.7
慣行法	464	52	7.3	2.8	72.8	3.5

BFS; 脂肪の色を示す。1~7の7段階で、脂肪が黄色いほど数値が大きくなる。

図1

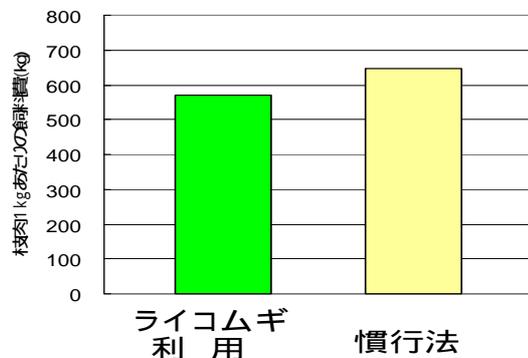


表4

ライコムギ成分(%)		
乾物中	風乾物率	34.1
	粗蛋白質	19.4
	粗脂肪	3.9
	灰分	13.1
	NFE	34.7
	粗繊維	28.9

【2 ご注意ください！】

- 1 飼料費は飼料単価によって変動します。各経営体の実績数値と表1の総摂取量を目安に再計算してください。
- 2 脂肪黄色化を軽減させるため、表1の黄色防止メニューを参考にしてください。
- 3 カルシウム不足を防ぐため、ライコムギ利用の場合には炭酸カルシウムを日量50g給与してください。

【3 効果】

自給飼料を活用した日本短角種の付加価値付けにつながります。 関係機関、日本短角種の肥育農家等

【4 適応対象】